

unicef



ユニセフ年次報告 2014
私たちのストーリー



出典について：本報告書のデータは、ユニセフ（国連児童基金）、各国連機関、ユニセフの各国事務所が提出している年次報告書、ならびに 2015 年 6 月 16 日～ 19 日に行われた執行情事会に提出されたユニセフ事務局長年次報告書のデータに基づくものです。

本書に記載されている金額の表記について：断り書きがない限り、金額はすべて米国ドル表示です。

印刷後の誤りや訂正は、<www.unicef.org/publications> でお知らせします。

表紙

© UNICEF/INDA2013-00068/Singh

ユニセフが早期幼児教育の支援をしているインド・グジャラート州のセンターで遊ぶ子どもたち、ハージックとシータル。

事務局長からのメッセージ

中央アフリカ共和国のウナム州にある「子どもにやさしい空間」を訪れた、アンソニー・レーク事務局長



© UNICEF/NYHQ2014-0070/Flynn

すべての子どもたちに人生における公平な機会が提供される未来、そして世界。

たくましく生き、育つ機会。遊び、学ぶ機会。立派な成人となり、公平な機会を次世代に引き継ぐ意思と能力が持てる — そんな世界。

私たちが、毎年、子どもたちのために思い描くのはそのような世界です。ユニセフは2014年も、子どもたちのために思い描く理想的な世界と、そのために私たちができることを近づけるために尽力しました。

2014年は、子どもの権利条約の採択から25年 — 子どもたちのための前進が四半世紀を迎えた記念すべき年 — である一方、子どもたちにとっては近年でも稀にみる悲惨な年でした。

何百万という子どもたちが、災害や紛争、慢性的な危機の影響を受けたほか、エボラ出血熱（以後エボラと表記）の流行など、これまでの前進を何年も後退させてしまう恐れのある新たな脅威に直面しました。何百万人も

の子どもたちが、生まれ育った家庭、生活しているコミュニティや国、その他自身の力の及ばない状況、そしてジェンダーや民族的帰属、障がいを理由に公平な機会を得る権利を引き続き否定されました。

大きなリスクや困窮にさらされた子どもたち、そのような子どもたちが暮らす社会には、一体どのような未来が待ち受けているのでしょうか。幼い時期の剥奪やトラウマは、子ども一人ひとり、ひいては次の世代の子どもたちにも影響を及ぼし、富める国と貧しい国を問わず、世代を超えて受け継がれる不公平性と不平等の悪循環を生み出します。

しかし、こうした悪循環は断ち切ることができます。それは、すべての社会において、必要なニーズが満たされている人々とそうでない人々の間の格差を埋めるための投資を拡大すること、また、データの改善によって最も厳しい状況にある子どもたちを特定し、公平性の前に立ちはだかる阻害要因や障壁を克服すること、より革新的なプログラムや製品、連

携を通じて、そうした子どもたちに支援の手を差し伸べることで実現できます。

この年次報告では、このような公平性アプローチがユニセフの支援する子どもたちの人生にもたらす影響について、数多くの事例を紹介しています。

例えば、世界が変化し、緊急事態が増加する中で、ユニセフの人道的取り組みと開発事業の関係性がいかに深まっているかを説明しています。

ユニセフとパートナー機関が、すべての子どもたちに支援を届けるため、イノベーションを促進し、これを活性化し、活用しようとしている姿、そして、逆に、これを使って、若者とコミュニティの人たちが、自分たちの懸念事項やアイデアを私たちに送り届けている様子が語られています。

最も厳しい状況にある子どもたちに投資を拡大してほしいという私たちのアドボカシー（政策提言）活動、そしてリスクにさらされている人々のために立ち上がろうとする社会的な動きに参加し、尽力しようとする姿も伝えています。

急速に変化する資金調達環境についても述

べています。ユニセフの事業を支える拠出金は全体として増加し、民間部門からの新たな支援も得られ、政府やその他の部門、コミュニティのパートナーとの関係も緊密化している一方で、支援が必要な事態が生じた際、迅速かつ柔軟に対応するために必要とされる通常予算が相対的に減少していることにも言及しています。

ユニセフに託されたすべての資金を可能な限り有効に活用するため、これまでよりも一層革新的で効率的な組織となるための、たゆみない努力についても述べています。

そして、世界でも特に過酷で危険な状況にある子どもたちへの支援に真剣に取り組む数千人のユニセフの職員とスタッフについても。

究極的には、この年次報告は、私たちが支援する子どもたちについて語ったものとなります。

私たちのストーリーは子どもたちのストーリーそのものです。子どもたちの未来、そして世界の未来についてのストーリーです。



アンソニー・レーク
ユニセフ事務局長

目次

事務局長からのメッセージ	1
はじめに	3
1 人道支援	7
2 プログラムの優先事項	21
3 ユニセフ、子どもたちにとっての真のパートナー	41

はじめに

どこに生まれようとも、すべての子どもに公平な機会を提供することは、原則としても実践の面でも正しいことです。世代を超えた不公平性と貧困の悪循環を断ち切るためには、子ども一人ひとりの、中でも特に困難な状況にある子どもの権利を実現することが必要で、大きな希望につながります。

『ユニセフ年次報告 2014：私たちのストーリー』では、この悪循環を断ち切り、子どもの人生に本質的な変化をもたらすために、ユニセフが年間を通じて、どのような活動を行ってきたかについてご説明します。また、ユニセフのプログラムや政策が、子どもと公平性に関するグローバルな対話をいかに進展させたかについても述べています。その焦点となったのは最も困難な状況にある子どもたち、つまり、最貧困層の子どもや女の子、障がいのある子ども、遠隔地に住む子どもや、民族や宗教的理由により差別を受けている子どもたちです。ユニセフのすべての取り組みに共通する目的は、こうした子どもたちが必須サービスや保護を受ける権利を確実に享受できるようにすることです。

不公平性の悪循環は、不可避なものでもなければ、克服できないものでもありません。2014年、ユニセフは、機会の不公平性によって多くの子どもたちが取り残されている問題に対処することによって、好循環を生み出す努力をしました。それは、子どもたちが人生の最良のスタートを切れるようにすること、また、十分な栄養を摂り、健康に育ち、教育を受け、保護され、安全な生活ができるよう支援することを意味します。最良のスタートを切れるよう支援することで、その子たちの人生が変わるだけでなく、さらにその子どもたちの（つまり次世代の子どもたちの）人生も変わります。そのような支援がないと、現在の子どもの機会が否定されるだけでなく、何世代にもわたって悪影響が残ってしまいます。

2014年は、私たちが描いている世界の子どもたちのあるべき姿と現状の間に、今なお残る

格差が浮き彫りにされた年でした。嬉しいこと、悲しいことが入り混じる年でもありました。嬉しいことは、何百万もの子どもたちの生活に改善をもたらした重要な国際条約である「子どもの権利条約」が採択 25 周年を迎えたことです。世界中でその成果を称えるイベントが開催されました。その一方でミレニアム開発目標達成に向けて大きな前進がみられたにもかかわらず、社会から取り残されている子どもたちは、今なお危険にさらされていることが分かったのです。

こうした子どもたちにとって、2014年は近年でも特に厳しい年となりました。『ユニセフ年次報告 2014』はこのような現実を踏まえ、同年の緊急事態活動の概観からはじめます。武力紛争の影響を受ける国・地域に住む子どもたちの数が推定 2 億 3,000 万人にのぼる中、ユニセフとパートナー機関は最も支援を必要としている子どもたちを支援し、困難な立場にある子どもや家族のために支援を集めるべく、たゆみない取り組みを続けました。こうした取り組みは、中央アフリカ共和国からシリア、ウクライナに至るまで、様々な背景の下で行われました。また、長年の紛争から復興の道を歩みはじめた矢先に、過去最大規模のエボラ流行に見舞われた西アフリカ諸国でも行われました。

次に、ユニセフの使命であると共に、ユニセフの中期事業計画 2014～2017 年の柱となる優先事項 — 保健、HIV／エイズ、栄養、水と衛生、教育、子どもの保護、社会へのインクルージョン（誰もが受け入れられる社会の実現） — についても重点的に取り上げます。2014年の事業支出の中でも、最大の支出となったのは保健、次いで教育、水と衛生となりました。これらの成果分野ごとの全体的な成果の概要と共に、子どもたちの成長の妨げとなっている不公平性を解消するための国別の取り組みについても簡単にご紹介します。

2014年、ユニセフは女の子や女性が、その能力を十分に開花させるのに、障壁となっている問題に改めて取り組みました。本報告書では、ユニセフの活動全体においてジェンダー問

題がどのように考慮されているかを示すため、関連する具体的な成果例を挙げました。ユニセフのジェンダー行動計画 2014～2017 年では、ジェンダーを理由とする不公平性に対処する枠組みを全体的に定めています。同枠組みの優先事項には、若者の保健に重点を置くこと、女子の中等教育推進、児童婚の撲滅、緊急事態におけるジェンダーに基づく暴力への対応が含まれています。

女子、男子の違いを問わず、成果を出せるか否かはパートナーシップが効果的であるかどうかにかかっています。ユニセフは、グローバルなレベルであろうと、ローカルなレベルであろうとも、他の機関や政府、市民社会組織、民間企業、基金、地域コミュニティと協力しています。また、経済的に余裕がある国でも、余裕がない国でも、各国の子どものために活動する各国国内委員会（ユニセフ協会）とパートナーシップを結んでいます。本報告書では、2014 年にユニセフが、その発言力、知識・物資供

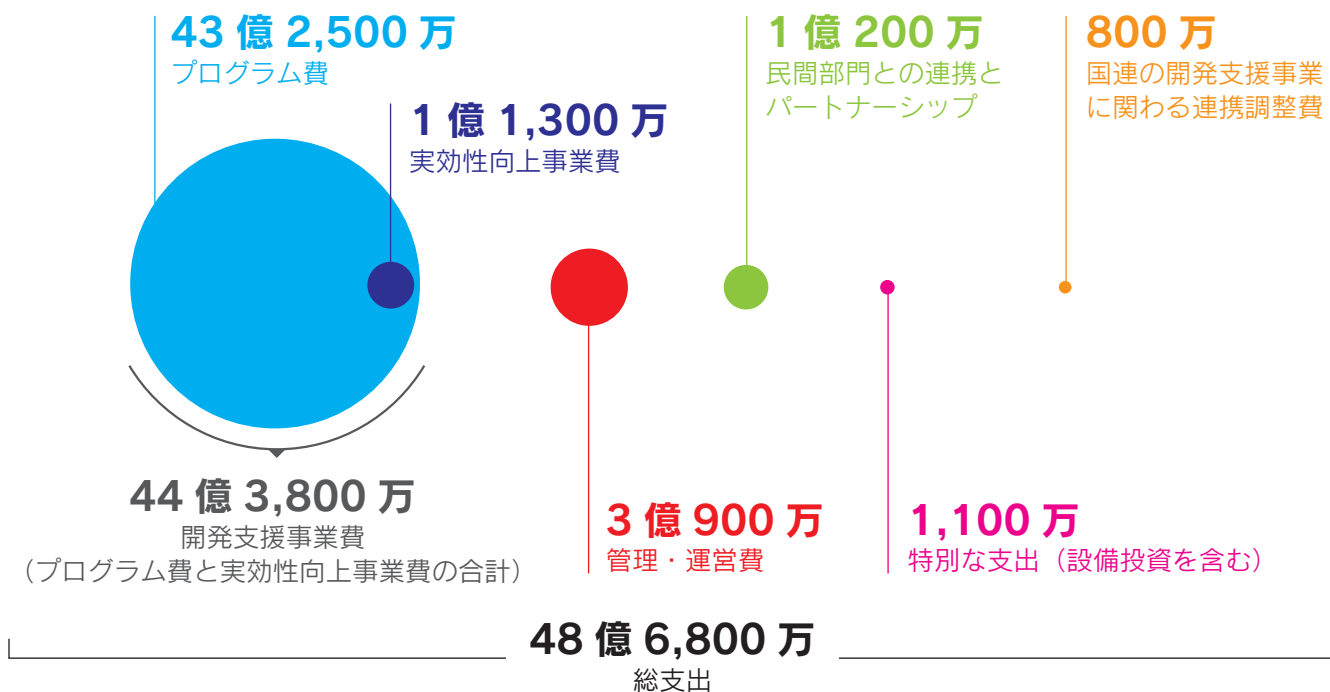
給・イノベーション（革新的技術・発想）の分野におけるリーダーシップ、そして子どもたちの生活改善に影響をもたらす資金の管理と用途を通して、どのようにして、子どもの真のパートナーになろうとしたのかを示しています。

本報告書では、民間部門との主要なパートナーシップの成果に焦点を当てていますが、ユニセフは、パートナーとなっている政府の支援とコミットメントにも大きく依存しています。実際、2014 年のユニセフの収入全体の 3 分の 2 以上が各国政府からの拠出金です。

しかし、最も重要なのは数字ではなく、ユニセフが支援を届けた子ども、そして依然として困難な状況にある子どもたちです。2014 年のユニセフの事業は、公平性に基づくアプローチ、つまり最も取り残された子どもたちに第一かつ最大の重点を置くことを中心に進められました。これは今後もユニセフの最優先事項であり続けます。

ユニセフの支出総計（2014 年）

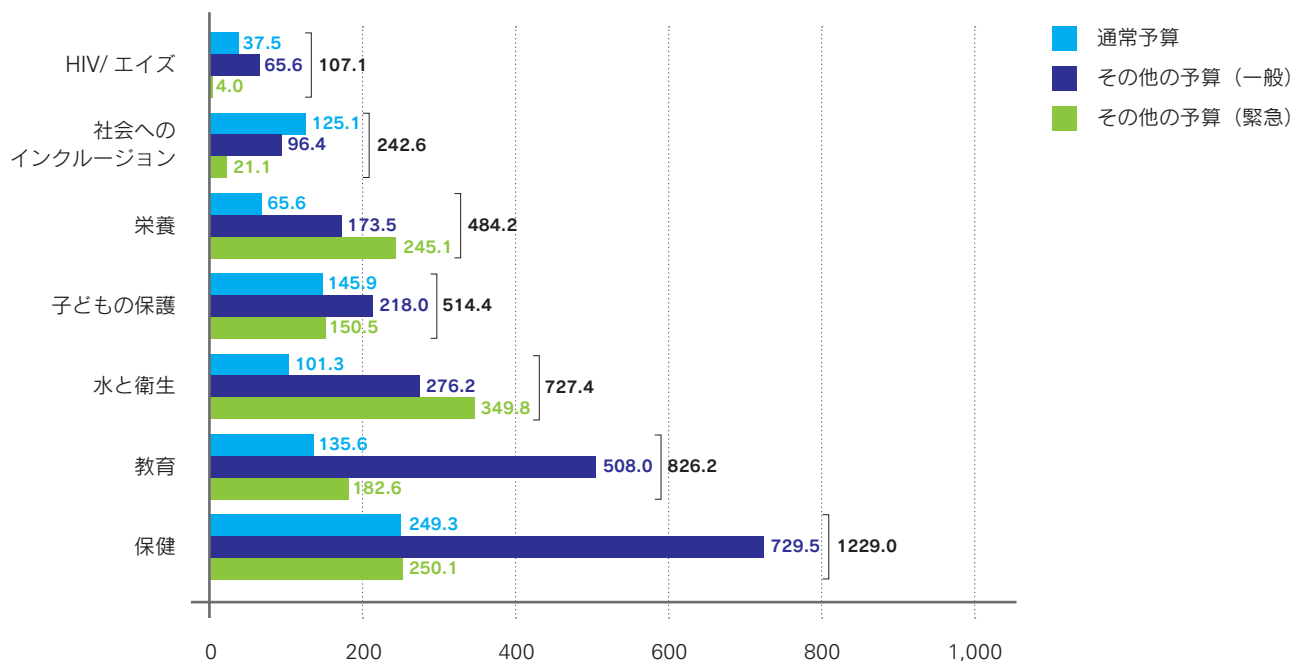
（単位：米ドル）



注：この表の支出は、修正現金主義に基づいて示されており、2013 年に作成された現金支出や発注などの内部義務文書を反映している。

成果分野別の事業支出割合（2014年）

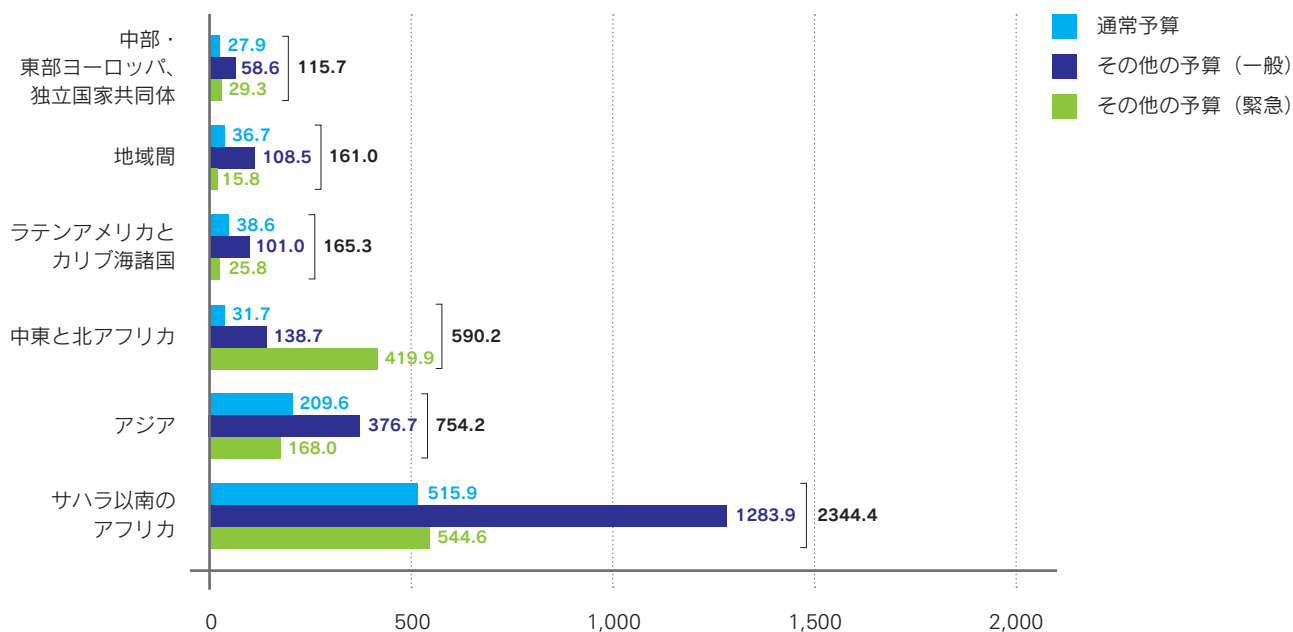
（単位：百万米ドル）



注：四捨五入のため、合計額は必ずしも一致しない。

地域別の事業支出割合（2014年）

（単位：百万米ドル）



* ジブチとスーダンへの事業支出は「サハラ以南のアフリカ」に含まれる。

注：四捨五入のため、合計額は必ずしも一致しない。



GOVERNMENT OF SIERRA LEONE
MINISTRY OF HEALTH AND SANITATION
PRIMARY HEALTH CARE UNIT

CERTIFICATE OF DISCHARGE

This is to certify that

Name: _____
of
Village: GEORGIEMA Chiefdom: KAIMBA District: MOYAMBA

Has been successfully managed at the Ebola treatment facility and is now free of Ebola. He does not constitute any risk to the community in any way. He has been adequately counselled, is fit to return to his home and

Dr. Albaji Sami Turay
MSF CB,
Center, Bandajuma, Bo

シエラレオネの南部州、モヤンバ地区の自宅でエボラ回復者であることの証明書を手にする 14 歳の少年